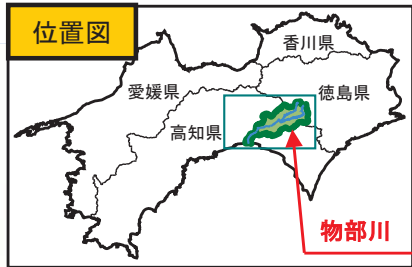


物部川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

～南国土佐の「ものづくり・物流拠点」と暮らしを守る流域治水対策～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、物部川流域においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の昭和45年8月洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



昭和45年8月台風10号
全半壊家屋2,185戸
浸水家屋2,936戸（流域内）



■河川における対策

対策内容 堤防整備、河道掘削、侵食対策
耐震対策、永瀬ダム堆砂浚渫 等

■流域における対策

・不動産関係業界と連携した水害リスクに関する情報の解説
・利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築 等
(関係者:国、高知県)
※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

・水位計・カメラの設置
・防災情報提供アプリの開発及び運用
・永瀬ダム下流域における浸水想定図の作成
・防災教育、防災講演会、防災訓練による意識啓発
・洪水ハザードマップの全戸配布、住民説明会の開催
・マイ・タイムラインの普及
・防災士、自主防災組織との連携 等
※今後、関係機関と連携し対策検討

凡例

■ 浸水想定範囲(昭和45年8月洪水と同規模想定)

⇄ 大臣管理区間

※この地図は、国土院の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものの(平27情複、第502号)を一部転載したものである。

※当面の対策をとりまとめたものであり、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

物部川水系流域治水プロジェクト

～今後連携して取り組むべき対策（案）～

1. 気候変動による外力増加を踏まえた、さらなる河床掘削
2. 破堤した場合に被害が深刻となる右岸（直轄区間上流部）の堤防強化
3. 南国市・高知市にまたがる長時間にわたって浸水する地域の解消
4. 治水・濁水・土砂管理といった様々な観点からの上流域のダムのあり方の再検討
5. 流域全体の土砂管理の観点から、多様な主体による上流域の整備のあり方の再検討
6. 降雨から出水までが短時間である物部川の出水特性を踏まえた、住民への避難情報の提供のあり方の検討

※その他の意見についても引き続き議論を行う